

「清流の国ぎふ森林・環境税」に関するアンケート調査結果

森林活用推進課

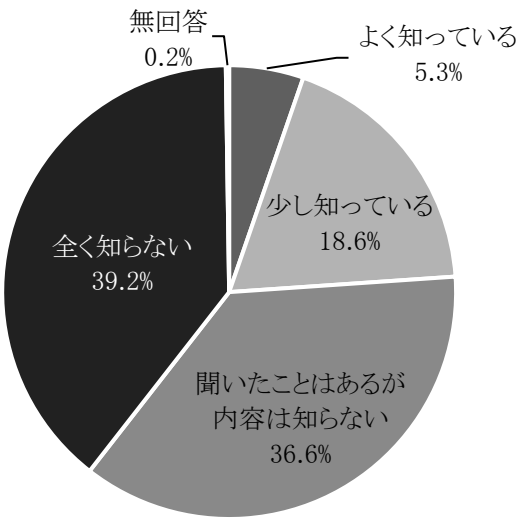
1 調査目的

「清流の国ぎふ森林・環境税」(以下「県森林・環境税」という。)に対する県民の皆さんの意識を把握し、今後の森林・環境施策の基礎資料とさせていただくために、ご意見などを伺いました。

2 調査結果

問1 あなたは、県森林・環境税について知っていますか。

	人数	割合
よく知っている	45	5.3%
少し知っている	158	18.6%
聞いたことはあるが 内容は知らない	311	36.6%
全く知らない	333	39.2%
無回答	2	0.2%
計	849	100.0%

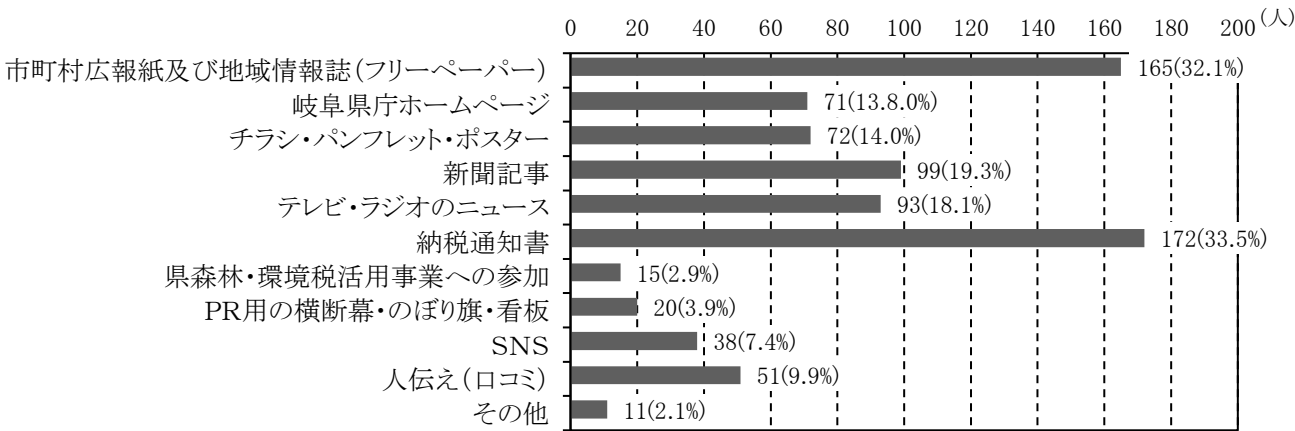


(問1で「よく知っている」「少し知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた方)

問2 あなたが、これまでに県森林・環境税について見たり聞いたりしたことのある媒体について、次の中からあてはまるものをすべてあげてください。

(複数回答) 回答者 514 人

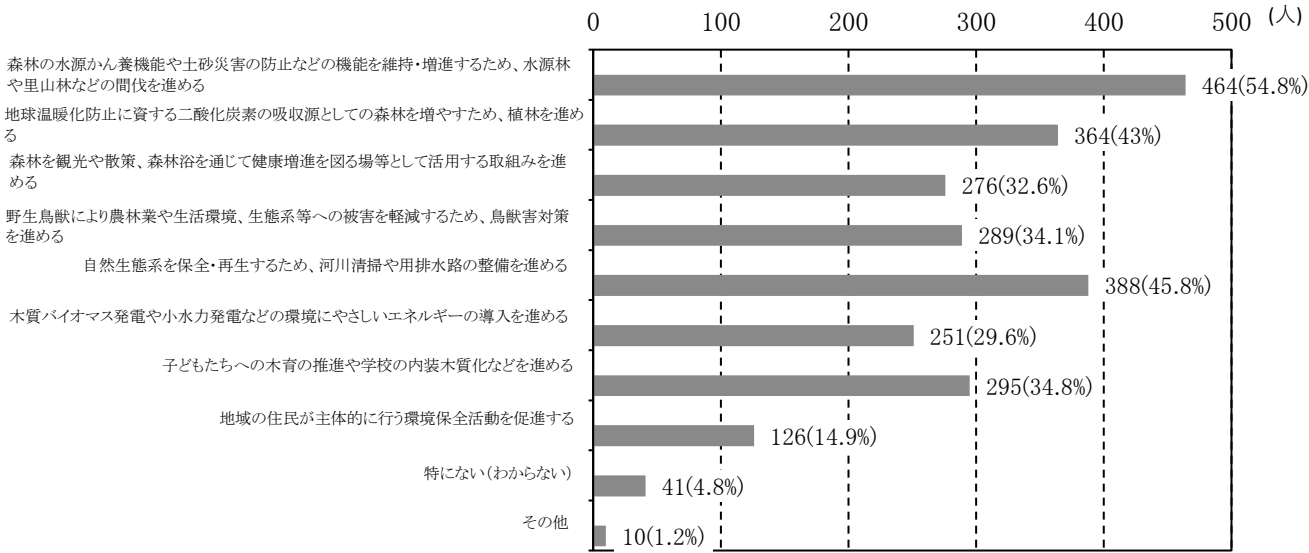
	回答数	割合
市町村広報紙及び地域情報誌(フリーペーパー)	165	32.1%
岐阜県庁ホームページ	71	13.8%
チラシ・パンフレット・ポスター	72	14.0%
新聞記事	99	19.3%
テレビ・ラジオのニュース	93	18.1%
納税通知書	172	33.5%
県森林・環境税活用事業への参加	15	2.9%
PR用の横断幕・のぼり旗・看板	20	3.9%
SNS	38	7.4%
人伝え(口コミ)	51	9.9%
その他	11	2.1%
計	807	-



【その他】 住民税通知書、市役所に配置されているベンチ、大学の授業 等

問3 県森林・環境税は、現在、森林づくりや、川づくり、水環境の保全などに関する取組みに活用されています。県森林・環境税を活用して、あなたが県に取り組んでほしいと思うものについて、次の中からあてはまるものをすべてあげてください。

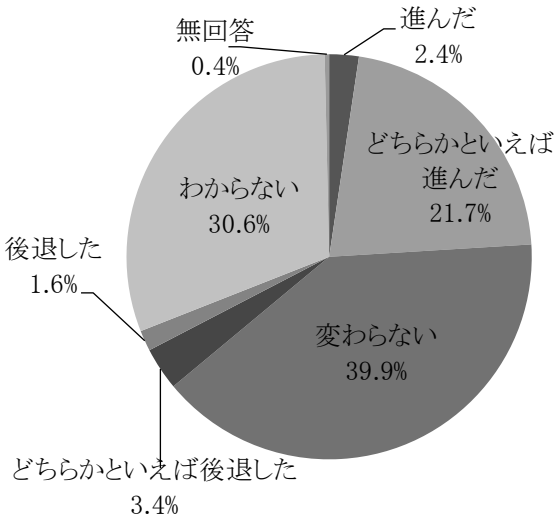
(複数回答)		回答者	847 人
		回答数	割合
森林の水源かん養機能や土砂災害の防止などの機能を維持・増進するため、水源林や里山林などの間伐を進める		464	54.8%
地球温暖化防止に資する二酸化炭素の吸収源としての森林を増やすため、植林を進める		364	43.0%
森林を観光や散策、森林浴を通じて健康増進を図る場等として活用する取組みを進める		276	32.6%
野生鳥獣による農林業や生活環境、生態系等への被害を軽減するため、鳥獣害対策を進める		289	34.1%
自然生態系を保全・再生するため、河川清掃や用排水路の整備を進める		388	45.8%
木質バイオマス発電や小水力発電などの環境にやさしいエネルギーの導入を進める		251	29.6%
子どもたちへの木育の推進や学校の内装木質化などを進める		295	34.8%
地域の住民が主体的に行う環境保全活動を促進する		126	14.9%
特にない(わからない)		41	4.8%
その他		10	1.2%
計		2,504	—



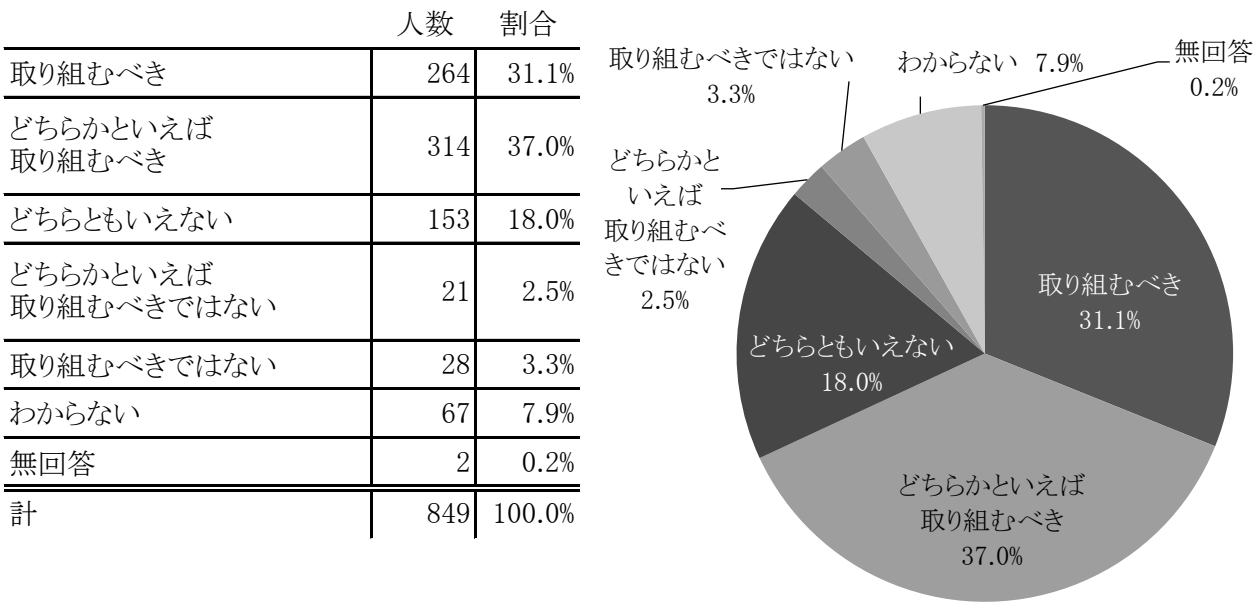
【その他】 水源林の公有林化、針葉樹を伐採して広葉樹を植林する活動 等

問4 近年、森林や川、水環境、生物多様性、自然環境に関する県の施策は進んだと感じますか。

	人数	割合
進んだ	20	2.4%
どちらかといえば進んだ	184	21.7%
変わらない	339	39.9%
どちらかといえば後退した	29	3.4%
後退した	14	1.6%
わからない	260	30.6%
無回答	3	0.4%
計	849	100.0%



問5 現在の県森林・環境税は、令和8年度までを課税期間とし、自然環境の保全・再生に活用されています。令和9年度以降も、県森林・環境税を活用し、森林や自然環境に関する施策に取り組むべきだと思いますか。



問6 その他、森林や自然環境に関する県の施策に対して、ご意見などがございましたら、お聞かせください。

【主な意見】

（広報について）

- これまでの取り組みの結果・効果等を具体的に広報されたい。
- 森林を守るとは、環境保全や災害防止の観点から非常に重要であり、将来の世代に向けた投資だと考え、その意味で森林環境税として年間1,000円を負担すること自体は妥当だと思う。税の使い道が見える形で公表されることは、住民の理解と協力を得るうえで不可欠。単なる数字だけでなく、写真や地図、関係者の声などを交えた分かりやすい情報発信を希望。

（問題提起）

- 耕作放棄地の活用方法が太陽光発電となることが多い。農園や特産物を作るなど自然を活かした方法が広く知られれば、もっと良い場所、子どもが健やかに安心安全に育つ場所に繋がると思う。
- 間伐されていない針葉樹林が多くあり、手入れが十分に施されていないように思う。林業従事者の減少や高齢化、国内木材の高価格化を考えると針葉樹林から広葉樹林への転換を進めた方が良いのではないかな。
- 花粉症対策と鳥獣害対策を兼ねて、スギやヒノキ以外の木（ドングリなど動物のエサになるもの）を山に植林してほしい。山を削って太陽光発電パネルの設置は景観を損ねたり、土砂災害の危険等があるので、やめてほしい。

（使途について）

- 伊吹山のシカの例にもあるように、土砂崩れ等が怖いので、他の森林等も対策をしてほしい。
- 木遊館のような木育に力を入れた場所がたくさんあるといい。実際に行ったが、木のおもちゃは独特の温かさがあり、自然由来で安心して遊べる場所もいいと思うので、小さい頃から遊べるようにたくさんあってもいいと思う。
- 多種多様な補助事業があるが、補助事業を活用できるのはある程度まとまった量の木材を使用する場合に限られることが多いため、活用できる事業者が限られる。特に飛騨地方には、個人や少人数で活動している優れた木工家も多いので、そういった人たちも利用しやすい施策があるといい。

(その他)

- 自然豊かな県であり、それを維持管理して安心安全を第一に後世にも大切に残してほしい。そのための税金ならやむを得ない。
- 森や川など自然豊かな県であることが魅力だと感じている。税金として集め、環境保全活動に生かしていただき、県の魅力を豊かにしてほしい。自然と共存しながら暮らせる県であってほしい。
- 国の環境税も始まっており、県環境税の森林部門は国の環境税で行えばいいのではないだろうか。
- 一律の課税はおかしい。これ以上税金を増やさないでほしい。生活が苦しい。